

Group 6

(青木敬、陳凱、弘中美希、一瀬悠、川崎悠紀、久保田雅之、重枝絵里奈、新谷恵、豊政慧、山崎恵)

## 日本の高校生の学ぶ意欲を高めるには

グループ6は、発表テーマを「高校生の学習意欲の低下」として討論を行った。基調講演で白川英樹先生がお話しされていた「童心を育み、維持させる大切さ」に共感し、学ぶ意欲に関する課題を議論のテーマに設定するに至った。

グループ討論の特徴として、海外留学経験者やNGO参加者などの活動に積極的に取り組んでいる学生が、自分の経験や、身近な例を多く用いたことが挙げられる。また、中国人留学生がいることで中国の例を参考にしつつ中国と日本の比較を行うことができた。この日中比較については発表のなかに直接組み込まなかったものの、活発な議論を行う際に重要な視点となった。

以下、発表の概要を記す。

### 1. Introduction

現代の日本において、様々な原因によって自ら学ぶ意欲が低下してきていると言われているが、私達はそれぞれにこのセミナーで学びたいという意欲を持って参加した。従って、私達には学ぶ意欲が十分に備わっていると思われる。実際に、私達の多くは高校生のときに、自らの興味・関心のある分野に気付き、学びたいという意識が芽生えてきた。その背景には、学びたいという意識を高める、私達を取り囲む環境が整っていた、ということがある。高校生は、そのような機会に多く巡り会え、また同時に受動的な学びから、能動的な学びへとシフトできる時期だと考える。

そこで、高校生に焦点をあてて、現状・背景・解決策を示したい。

### 2. 現状

はじめに、2003年に行われた調査を例にあげる。国立教育政策研究所教育課題研究センターが全国の高校三年生にアンケート調査を行ったところ、『勉強は大切だ』と言う質問に関して、『そう思う』と答えた生徒は全体の39.5%であり、『そう思わない』と答えた生徒は6.6%であった。一方、『勉強が好きだ』と言うことに関しては、『そう思う』4.2%、『そう思わない』44.3%となっている。『勉強は大切だ』と思っているのに、何故『勉強が好き』と言うことにならないのだろうか。これは現代の日本の過酷な受験社会や、厳しいプレッシャーが学生

に負担をかけていることが理由として考えられる。

### 3. 背景

このように受動的な生徒が大半を占める現状となった背景として考えられることをいくつか述べたいと思う。まず根本的に、日本人の持つ文化的な性質が大きな要因となっていると考えられる。日本人は概して突出したものを嫌い、みんなと同じでなくては不安になってしまう傾向にある。私たちの経験からすると、発言してまちがえた場合に否定的な雰囲気となったり笑われたりすることにより、そのことで能動的になることを恥ずかしいと感じてしまい、消極的にならざるを得ないような感覚に陥ってしまう。

確かに、日本では様々な分野でグローバル化が進んでいるといわれているが、教育の分野では、日本のネガティブな文化的特徴が未だに残っているように感じられる。

### 4. 解決案

これらの背景から、私達は他の文化を知ることが学ぶ意欲の低下への解決策になると考える。何故ならば、高校生にとって他の文化を知ることが視野の拡大に繋がるからである。私たちの経験から、他の文化に触れることで今までになかった考えが生まれ、新たなものへの好奇心が出来る。その好奇心が、学ぶ意欲を高めるのだ。そのためには、他の文化を知る機会が必要である。高校生では、親、先生、文部科学省、NGO、地域社会等から機会を与えられることが多い。その機会を得て他の文化を知ることが、学ぶ意欲の低下の解決策になりうる。

### 5. Conclusion

高校生の学ぶ意欲は低下の一途を辿っている。しかし、学ぶ意欲を高める機会は幾らでもある。問題は、高校生がその機会を得ることが出来るかどうかだ。高校生が他の文化を知る機会を得て、学ぶ意欲を高めることが出来れば、私達が考える新しい教育のビジョンである「受動的な学習から能動的な学習へのシフト」が可能になるのである。

### 参考文献

国立教育政策研究所教育課程研究センター（2003）

『平成15年度教育課程実施状況調査（高等学校）ペーパーテスト調査集計結果及び質問紙調査集計結果』

[http://www.nier.go.jp/kaihatsu/katei\\_h15\\_h/H15\\_h/03001000040007003.pdf](http://www.nier.go.jp/kaihatsu/katei_h15_h/H15_h/03001000040007003.pdf)